

## 授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル素材論	アパレルの主素材である布地の種類と性能の基本を理解させ、応用力を養わせることを教育目標とする。布地を理解し商品対応するには、布の構成要因となる繊維、糸、織、編、レース、染色、加工などの各々の種類、性質などを複合的に捉える必要があるため、授業は繊維から系統的に展開し、講義に加え、演習・実験・実習を含め理解を促し、実践的なものにする。レベルは、テキスタイル科として今後の教科目等の礎を得られる設定である。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			染色演習	実験実習・レポート制作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総理解を図る。概論、基礎実験、工芸染色、夏期休暇課題、展示会見学	1・通年	120	4		○		○		○		
○			ウィービング基礎演習	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じ、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	1・通年	120	4		○		○		○		

○			テキスタイル制作において必要な基礎カリキュラムの充実をはかる。作品制作を通して、「基礎知識」「基礎技術」「基礎デザイン」が習得できるようにする。テキスタイルワーク、日傘・こいのぼり制作、民族衣装制作	1・通年	60	2				○	○		○		
○			自由研究Ⅰ	「自主性」「独創性」「表現力」と共に「協調性」の向上を目的とする。自由研究ならではの講義および実習を導入する。研究内容設定、研究調査、グループ企画・制作、コラボレーション授業、コンテスト活動、ポートフォリオ制作、コラボレーション企画、工場・企業訪問などから比重の大きい項目で構成する。	1・後期	30	1				○	○		○	
○			自由研究Ⅰ	「自主性」「独創性」「表現力」と共に「協調性」の向上を目的とする。自由研究ならではの講義および実習を導入する。研究内容設定、研究調査、グループ企画・制作、コラボレーション授業、コンテスト活動、ポートフォリオ制作、コラボレーション企画、工場・企業訪問などから比重の大きい項目で構成する。	2・後期	30	1				○	○		○	
○			ドレーピングⅠ	立体裁断の基本的な考え方、基礎的技術・知識を理解させる。布目の重要性・ボディとパターンの関係、ドラフティングの仕方、平面から立体への布のとらえ方、視覚訓練の重要性。立体裁断の基礎、タイトスカート、身頃の基礎、シャツ・ブラウス	1・通年	60	2				○	○		○	
○			ニット基礎	ニットの基礎知識を理解し、棒針編み、かぎ針編み、家庭用編み機の基礎技術を習得。ニットテキスタイル研究の基礎の技術を習得。	1・後期	30	1	△	○		○			○	
○			色彩論・演習Ⅰ	テキスタイルデザインの中で色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・通年	60	2	○	△		○			○	
○			デッサン	視点を変え、ものを見ること、描く事の意味を再認識する事とあわせ、基本的描写能力・表現能力の向上を目的とする。また平面にとどまらない各自の、多彩な表現に結びつくような方向性も考慮する。	1・前期	30	1				○	○		○	

## 授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションデザイン画Ⅰ	人体のバランスを把握し、基本となる衣服を身に着けた時の量感や関連する構造を習得する。 基本的な技法からオリジナルな展開へと創造力を高め、デザインアイディアを具体化し表現する。	1・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			ファッションビジネス概論	ファッションビジネスに必要とされるファッションビジネスの特性から、変遷、現状、産業構造、業態、職種、流通、マーケティング、マーチャンダイジング、計数、販売にいたる基礎知識を学ぶ。	1・ 前 期	30	1	○			○		○		
○			服飾手芸	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にしてテキスタイル、服飾、小物造形などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・ 通 年	60	2	○			○		○		
○			グラフィックワーク	Photoshopの基本操作を習得し、画像の切り抜き・合成ができるようになる。Illustrator初心者を対象に、ソフトの基本操作を習得し、ペンツールの描画方法、連続柄の作成方法、回転・反転ツール等の操作を身につける。	1・ 通 年	60	2		○		○		○		

○		キャリア開発Ⅰ	将来を考えるテーマを通し、「(読み)・聴く・書く・話す力」を養う。育成プロセスとして、単なるやり方を伝えるだけでなく、意識させ、繰り返してできるようになるまで行う。	1・後期	30	1		○	○	○			
○		特別講義Ⅰ	通常カリキュラムの範囲外における、テキスタイルに関する情報や知識を学ぶ。 クリエイティブ・テキスタイル、トレンド、服装解剖学、VMD、身体表現、デザイン、立体、造形、編集	1・通年	60	2			○	○	○		
○		校外研修Ⅰ	学外にて多くのものを見聞することにより視野を広げ、より多くの専門的な知識を得ると共に社会人としての不可欠な教養とマナーを育む。	1・通年	30	1	○				○	○	
学年合計				18科目	1000単位時間(単位)		30						

(別紙様式4)

(3/6)

### 授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			テキスタイル論	繊維、糸、組織、染色、加工などの知識の更なる充実を図る。また、それらの視点に基づいて各自が既製の素材観察やオリジナルの糸や布の試作により、テキスタイル製作に活用、展開しうる発想力、思考力を養うことを目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			テキスタイルプランニング	ファッションテキスタイル制作において、プランニングの重要性を理解する。様々な角度からより多くの現状の素材ビジネスの展開を紹介し、リアリティーのある、明確な目的を持ったプランニングを目指す。テキスタイルビジネスの世界での的確な視点、適応力を育て、テキスタイル企業での実践力を養う。あくまでも実学を志し、幅広い視野の知識を身に付け、豊かな発想力を生かせるように、総合的ノウハウを取得する。	2・後期	30	1			○	○		○		

	○		染色演習（選択）	実験実習・レポート製作を通して各染色技法、加工方法を習得し、新たな発想力、表現力を養う。素材選択から染色加工に至るまでのファッション衣料としてのテキスタイルの総理解を図る。概論、基礎実験、工芸染色、夏期休暇課題、展示会見学	2・ 通年	120	4		○	○	○		
	○		プリントデザイン演習Ⅰ	手捺染によるスクリーンプリントとパソコンを使用したデジタルプリントのそれぞれの仕組みと特徴を把握し、繊維業界に通じる実践的な技術を修得することを目標とする。前期はスクリーンプリント・デジタルプリントともに、一連の演習で基礎技術を身につける。後期のスクリーンプリントは応用的なプリント・加工法を用い、デジタルプリントはパソコンの操作技術を向上させ、それぞれの技法で制作物の完成度を上げる。	2・ 通年	120	4		○	○		○	
	○		ウィービング基礎演習（選択）	前期は三原組織を中心にサンプル制作を通じ、織物の構造を理解し、制作に必要な知識・技術を習得する。前期後半から後期にかけてはマフラー・厚地織物サンプル・身につける布をテーマとした自由制作により、素材・組織選びなど用途に合わせた織物の企画をすることで、風合い・機能・効果を習得する。	2・ 通年	120	4		○	○		○	
	○		ウィービングデザイン演習Ⅰ	1年次のウィービング基礎実習で学習した基礎に加え、さまざまな織物技法を習得する。それらの知識や技術を用いてアパレルやファッション小物など製品の素材としてのテキスタイルを意識した織物制作を行う。	2・ 通年	120	4		○	○		○	
	○		テキスタイル図案Ⅰ	前期は実技課題を通じてテキスタイル図案の基礎である送り（リピート）とは何かを学び、同時に制作過程において画材の取り扱い方・アイデアを表現するための技術を習得する。後期はテーマ別の図案作成により季節・ターゲット・用途などに合わせたデザインを考え表現する事で実務に生かせる能力を身につける。	2・ 通年	60	2		○	○		○	
	○		テキスタイルクリエイションⅡ	デザインやアイデアを実現する。目的を実現するための技術を個々が学ぶ中で、その達成のために様々な実験を行い、知識や技術を学ぶと共に、同級生が同じく製作する作品の経験を共有しつつ、テキスタイル表現の多様性を学ぶと共に、製作におけるそれらの経験を重ねることにより、具体的なデザインの方法を学ぶ。	2・ 通年	120	4		○	○		○	○

## 授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		自由研究Ⅱ(選択)	「自主性」「独創性」「表現力」と共に「協調性」の工場を目的とする。 自由研究ならではの講義および実習を導入する。研究内容設定、研究調査、グループ企画・制作、コラボレーション授業、コンテスト活動、ポートフォリオ制作、コラボレーション企画、工場・企業訪問などから比重の大きい項目で構成する。	2・ 通 年	60	2			○	○		○		
	○		服飾造形Ⅱ(選択)	パンツとワンピースを制作しその構造を理解する。 作図理論・パターン展開方法を把握し基本的な縫製技術を習得する。 各自が制作したオリジナルテキスタイルを全体的または部分的に使用することを条件とする。	2・ 通 年	120	4			○	○			○	
	○		ドレーピングⅡ(選択)	スカートとワンピースの立体裁断を通して、服作りの基本理論と技術、バランスを理解する。 応用表現として立体裁断で制作したパターンを展開し、オリジナルテキスタイルでの作品を制作する。	2・ 通 年	60	2			○	○			○	
○			色彩論・演習Ⅱ	色彩論・演習Ⅰで習得した色彩の知識や技術を基礎とし発展的に学習する。 テキスタイルの実際制作において必要と考えられる色再現(混色)に対する知識、技術を高めることを目標の一つとする。 また、市場やメディアからのファッション情報を前提とした色彩計画の考え方について演習を通して学習する。	2・ 通 年	60	2	○		△	○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅱ	ファッションドローイングの応用技術を習得して、独自のアイデアをデザイン画で表現しポートフォリオにまとめる。デザインコンセプト(目的)を明確に意識したデザイン展開を行えることを目標とする。	2・ 通 年	60	2			○	○			○	

○		ファッションマーケティング	マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・前期	30	1	○			○	○		
○		染色文化論Ⅰ	日本の染織文化について年代を追って歴史的に解説する。また、日本の染織文化に影響を及ぼした中国や東南アジアなどの東洋の染織文化や西洋の染織文化のつながりについて触れることにより深い理解と見識を広げ、染織の文様や知識を身につけることを目指す。様々な染織の知識はテキスタイルを考えるうえで応用できる基礎的な力を育てることを目標とする。	2・通年	60	2	○			○	○		
○		キャリア開発Ⅱ	学生が就職を志望する先に内定するために必要な「就職力」を講義+実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1				○	○	○	
○		特別講義Ⅱ	物作りをする上で有意義な情報や技法を学びとり、個々の創作活動に発展性を持たせる。	2・通年	30	1	○			○			○
○		校外研修Ⅱ	テキスタイル産地の企業見学研修を行う。企業見学は企業での実務、特に生地や製品の生産工程を見学し産地や企業の特徴を学ぶ。また、実際に生地を提案、織布している方々の講義を聞き、テキスタイル産業の現状を聞く。	2・通年	30	1				○	○	○	
○		企業・学内研修	研修先企業で業務の一端を経験することにより、業界の仕事内容を認識するとともに、社会人としてのマナーを身につける。就職意識を高め就職活動の参考要素とする。学内研修に関しては就職試験に向けた各種実践授業を受ける。	2・後期	60	2				○	○	○	
学年合計			16～17科目	1110単位時間(		37単位)							

(別紙様式4)

(5/6)

## 授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 2019年度									
分類						授業方法	場所	教員	

必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
○			テキスタイルマーチャンダイジング	前期の教育目標は2年次までに習得した知識内容又レベルの自己判断をした上で、テキスタイル知識の補足的復習。 後期は前期の内容を踏まえて、シーズンテキスタイル企画、又アイテム企画等への応用シミュレーションを学習し、各自のオリジナル性を強調させた、ファッションテキスタイルマーチャンダイジング手法を習得する事を目標とする。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			プリントデザイン演習Ⅱ	プリントデザインの流れは、その時の社会状況を反映し、時には時代のトレンドをリードしている。 ファッションのためのテキスタイルとして、デザインの知識や技法、思想を知ることによって各自のプリントデザインの布地製作に活かしていくことを目的とする。	3・前期	120	4		○		○			○	
○			ウィービングデザイン演習Ⅱ	1、2年次の「ウィービング基礎演習」「ウィービングデザイン演習Ⅰ」で学んだ織物構造、デザインの基礎を踏まえ、アパレル製品の素材として織物を大量生産する立場から捉えられるよう指導する。同時に新たな織物デザインの可能性をさまざまな面から追求する。	3・前期	120	4		○		○			○	
○			テキスタイル図案Ⅱ	2年時の演習の上にさらに独自の発想を表現できるレベルに技術を向上させ、テーマ別にターゲット・季節など使用するシーンをこまかく設定した図案を作成することで、繊維業界における図案の実際を学ぶ。 プリント演習・服飾造形等他の授業と連携し図案作成からプリント、縫製まで服作りの流れを習得する。	3・通年	60	2	○		△	○			○	
○			テキスタイルクリエイションⅢ	1・2年次で学んだテキスタイルに関する知識、技法を活かし3年次の課題としてトレンドを意識したテキスタイルを制作する。各自がテキスタイル企画から制作までを行い、企画力や技術のスキルアップを目的とする。	3・後期	120	4			○	○			○	



○		テキスタイル商品企画	テキスタイルの基礎知識・ブランド設計・市場調査などを通じて、ストールや服といった実際の商品を企画し、文化・ファッションテキスタイル研究所にて生地を製織し、製品を作成する。	3・ 通年	60	2				○	○		○	
○		自由研究Ⅲ	各自が卒業制作、就職活動に向けて専門性を絞り込み、研究テーマを決めて情報収集、ポートフォリオなどの作成の時間にあてる。また、各コンテスト活動、コラボレーションにも積極的に参加実習することを目的とする。	3・ 前期	30	1				○	○		○	
○		服飾造形Ⅲ	3年次では、ジャケットとコートを作成し、各アイテムの構造を理解する。 応用的なアイテム制作をすることで、発想力や技術力の強化を図る。 素材は、各自が制作したオリジナル素材を使用することを条件とする。	3・ 通年	120	4				○	○		○	
○		ファッションデザイン画Ⅲ	卒業学年ではデザインの現場（社会）で求められる業務内容を課題内容として、プロへの準備段階と考える。 作品レベルでは個性を尊重するが思いつきの内容ではなく第三者の質問に丁寧な説明が出来ることを目指す。	3・ 通年	60	2				○	○		○	

## 授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッションテキスタイル科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			染色文化論Ⅱ	古代から現代まで時代背景に基づきながら、西洋染織の変遷と特徴について解説します。特に人々との関わりから生じる模様の由来や象徴性について理解を深めるとともに、過去の染織から新たなデザイン発想へと展開させ、あらゆる分野のテキスタイルに応用できる力を身につけることを目標とする。	3・ 通 年	60	2	○			○		○		
○			アパレル品質論	テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を理解し遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。 講義と演習により理解を深める。	3・ 前 期	30	1	○			○		○		
○			ピンワーク	ピンワーク習得を通して素材の特性を理解し平面から立体への表現を実感する事で発想や創造力の幅を広げる。 テキスタイルの展示会を想定し、企画～資料作成～プレゼンテーション～演出までを身につけ現実的な意識を高める。	3・ 通 年	60	2	○			○		○		
○			特別講義Ⅲ	物作りをする上で有意義な情報や技法を学びとり、個々の創作活動に発展性を持たせる。	3・ 通 年	30	1	○			○		○		
		○	インターンシップ (自由選択)	各自の就職活動の一環として、企業や業種の現場での研修を行い仕事の内容を認識するとともに就職意識を高めることを目的とする。	3・ 後 期	30	1			○		○	○		

○	卒業研究・創作	ファッションテキスタイル科の最終課題として、制作する素材と服のデザインとの調和に重点を置き時代性を加味しつつ独創的で完成度の高い作品を目指す。	3 ・ 後 期	120	4				○	○	○		
学年合計		14 科目	1050単位時間(		35単位)								
学年合計		48~49 科目	3240単位時間(		108単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価を受け修了すること	1 学年の学期区分	前・後期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合

については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。